



vol.
03
2015

WE ARE THE FRONT RUNNERS!

～核なき世界に向けて～

ナガサキ・ユース代表団
2015 活動レポート

Q.1 ナガサキ・ユース代表団って何?

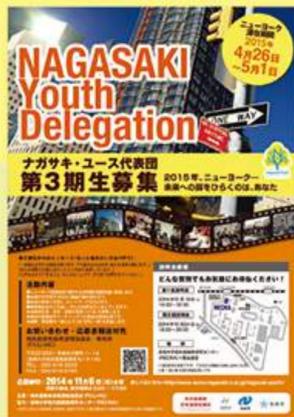
A. 長崎県、長崎市、長崎大学の3者が構成する「核兵器廃絶長崎連絡協議会」(PCU-NC)が主催する人材育成プロジェクトです。2013年に第1期生の活動が始まりました。次世代を担う長崎の若者が、核や平和の問題を実践的に学び、この分野で活躍する国内外の人々と出会うことで、自ら考え、行動する力を身に付けることをめざしています。

2015年度は、公募で選ばれた12名の長崎の大学生・院生がニューヨークの国連本部で開催された「2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議」(右ページ囲み参照)への参加を中心に、さまざまな活動を行いました。



Q.2 誰が応募できるの?

A. 募集対象は、長崎県内に在住・在学・在勤の大学生・院生、および同程度の年齢の若者です(18~25歳を目安)。高校生(応募時)は不可。国籍は問いません。核兵器問題に関心があり、本プロジェクトの活動を通して、こうした分野での知識や経験を得たいと希望する若者、公式の活動期間が終了した後もなんらかの形で「核兵器のない世界」の実現のための活動にかかわっていくことを希望する若者を求めます。大学での学部や専攻等は問いませんが、日本語・英語での一定のコミュニケーション能力は必須です。また、活動に求められる知識を得るための勉強会や、企画、準備のためのミーティングに原則参加可能であることが求められます。



2015年度募集チラシ

Q.3 費用は誰が負担するの?

A. 活動にかかる費用の一部をPCU協議会が活動支援金として拠出します。2013年~15年の場合は、国際会議への参加にかかる旅費・滞在費として、一人あたり一律20万円が支給されました。不足分が出た場合は個人負担となります。

Q.4 誰がメンバーを選ぶの?

A. 選考は2段階で行われます。1次審査は志望動機などが書面審査されます。2次審査は英語による面接です。2次審査の選考委員は以下の通り(2014年度。肩書は当時)。調漸(核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、長崎大学学長特別補佐・副学長)、片峰茂(長崎大学学長)、ブライアン・パークガフニ(長崎総合科学大学教授)、稲田俊明(長崎大学言語教育研究センター長)、梅林宏道(長崎大学核兵器廃絶研究センター長)。

ナガサキ・ユース代表団に関する7つの質問

Q.6 現地の活動内容は?

A. 大原則は、「自分たちのプログラムは自分たちで創る」です。第1期生から第3期生までが参加したNPT関連の会議には、各国政府代表だけでなく、世界各地からNGOや専門家、大学生などの若者世代が多数集まり、政府間会議と並行して毎日さまざまな会議やワークショップなどが開催されました。ユース代表団のメンバーは、それらに参加するだけでなく、国連内の会議室を使って自主ワークショップを実施しました。各国の外交官との意見交換や、現地の大学や高校への訪問も連日のように行いました。そうした活動は、SNSを通じてリアルタイムに情報発信され、世界中の人々に共有されます。参加者一人一人が自分の興味や関心、目標に沿って、オリジナルの現地活動プランを立てていく、というのがナガサキ・ユース代表団の活動の醍醐味と言えるでしょう。

Q.7 帰国後の予定は?

A. 長崎で報告会を行います。その後の活動は「ナガサキ・ユース代表団」メンバーとしての義務ではありませんが、一連の活動を通じて得た知識や経験、国内外の人々とのネットワークを活かして、何らかの形で核問題にかかわっていくことが奨励されます。実際、ユースメンバーに対しては、国内外のさまざまなグループから、一年を通して交流や取材の依頼が多数舞い込みます。また、RECNAには、核問題に関心を持つ人々が集う「RECNA サポーター」という自主的な枠組みがあり、核問題での勉強会やイベントを日常的に行っています。大学生・高校生も多く参加しています。ここで活動していくことも一つの方法です。

Q.5 核問題を専門的に勉強していなくても大丈夫?

A. 大丈夫です。選考後の学習を通じて、核問題の基礎から最新情勢まで幅広く学ぶ機会があります。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の教員に加え、国内外の専門家を招いた講義やワークショップも開かれます。また、長崎の被爆の実相やその背景についても学習します。第3期生の場合は、選考からニューヨーク出発までの間に、10回以上の勉強会と、数回の集中講義を受講しました。

『2015年NPT再検討会議』って何?

1970年に発効した「核不拡散条約(NPT)」は、その名前の通り、核兵器保有国が増えることを防ぐために作られた条約です。加盟国は191か国(2003年に脱退表明した北朝鮮を含む)で、インド、パキスタン、イスラエルの3か国は加盟を拒否しています。NPTでは、米、ロ、英、仏、中の5か国を「核兵器国」、それ以外を「非核兵器国」と定め、前者には核軍縮に向けた交渉を誠実にを行うことを求め、後者には核兵器の開発や取得を禁じています。また、条約加盟国には「原子力の平和利用」(原子力発電など)の権利が認められています。条約で定められた義務がきちんと守られているかを検討するため、5年ごとに開かれる会議が「再検討会議」です。ニューヨーク国連本部に加盟国が集まり、4週間にわたって意見を交わします。次は2020年再検討会議に向け、2017年から3回の準備委員会が開かれます。

「ナガサキ・ユース代表団」の挑戦
THE CHALLENGE
OF YOUTH MEMBERS

第3期生メンバーによる
活動のごく一部を紹介します

2015 MEMBERS

ナガサキ・ユース代表団・第3期生

(写真左から) 秀 総一郎 (長崎大学多文化社会学部2年)、河野早杜 (同環境科学部3年)、竹田 穂 (同多文化社会学部2年)、稲垣歩海 (同多文化社会学部2年)、荒倉由佳 (同医学部医学科3年)、宮田美波 (同医学部保健学科4年)、川崎真由 (同薬学部3年)、中原ゆかり (同環境科学部3年)、山中智絵 (同薬学部3年)、西田千紗 (同医学部医学科3年)、佐々木朋哉 (同工学部3年)、天野貴暢 (同大学院工学研究科博士前期課程)

(肩書き、学年は2015年5月時点のもの)

ナガサキ・ユース代表団3期生は、外務省から「ユース非核特使」※に委嘱されました。

※被爆の実相の次世代への継承と活動の後押しを行うことを目指し、軍縮・不拡散分野で活発に活動する若い世代の人々に対し外務省が付与する称号。



1. 出発前

「世界を感じる」2つのワークショップ



在ニューヨークの軍縮教育家キャサリン・サリバンさんを講師に迎えたワークショップでは、2人ペアやグループでの議論、フィールドワークなど、多彩な手法を用いた参加型スタイルで核問題を学びました。また、世界的な若者ネットワークのリーダー、クリスチャン・ショバヌさんによるワークショップでは、若者世代の取り組みの重要性や課題について熱い議論を交わしました。



連続講座 「ナガサキを学ぶ」(全4回)

平和学習の「出前講座」を行っている「ピースバトン・ナガサキ」のスタッフによる連続講座を受講。長崎原爆の実相やその背景を「座学」で学び、「さるく」(長崎弁で「まちをぶらぶら歩く」の意)で原爆と戦争の傷跡を辿りました。



2. ニューヨークでの活動

国際会議って面白い! ~外交の最前線を知る~

100か国以上の政府代表が集まる本会議場の雰囲気は圧巻! 淡々と続く演説の中にも各国それぞれの思惑が混ざり合い、新しい展開やさまざまなドラマが見え隠れしています。アメリカとロシアの緊張を含んだやり取りに会場がピリッとする場面も。傍聴席のユースメンバーは真剣な表情で議論の動向を見守ります。

外交の動きを間近に感じることができるのは、本会議場だけではなくありません。国連内の会議室では、毎朝、NGOと政府関係者の対話の場が作られています。ユースメンバーは、世界の若者グループと一緒に、各国政府関係者に直接アポを取り、多くの意見交換の場を持ちました。



若者の思いを世に問う! ~国連内ワークショップの開催~

再検討会議が行われる国連ビル、また、国連周辺のエリアでは、政府間会議と並行して、NGO等が主催する多種多様なイベントが毎日のように行われます。ユースメンバーは、多くの場でプレゼンテーションやスピーチの機会を得ました。



日々の新しい発見や出会い、率直な思いを10人がそれぞれブログで毎日発信しました。

「ナガサキ・ユース代表团」公式 Facebook ページ <https://www.facebook.com/nagasakiyouth>

facebook ナガサキ・ユース代表团

アートで平和を発信! ~"PDP" Peace Dove Project~



長崎に寄贈された千羽鶴の再生紙を利用したアートプロジェクト。長崎で、ニューヨークで、街行く人々に「平和への思い」を手形に書いてもらい、それぞれの手形を羽に見立てて、巨大なハトがはばたく絵を描きました。さまざまな言語で書かれた手形は約400枚。作品は約8千人が参加したニューヨーク市内のデモ行進や、国連内のユース主催イベントで掲示され、注目を集めました。



共通の課題を発見! ~ドイツ大学生との意見交換会~



5月7日には、ナガサキ・ユース代表団の自主ワークショップ「Society and Governments' Attitude Toward the Nuclear Weapons: A Proposal From the Youth of Nagasaki (核兵器に対する社会と政府の姿勢: 長崎の若者からの提言)」を開催。各国から政府関係者、NGO、専門家、若者の出席がありました。「現在の平和教育とその未来」「核問題に対する若者の意識」「日本政府の核政策」の3つのテーマに沿って、事前に長崎大学生を対象に行ったアンケートやインタビュー調査の結果をもとに、現状の分析と今後に向けた提案を行いました。「同世代の若者を巻き込んでいくにはどうすれば良いか」「被爆地の平和教育に足りない要素は何か」「日本は周辺国とどのような関係を築いていくべきか」一。ここでの発表内容と議論の成果は、その後のユースの活動に大きな影響を与えるものとなりました。

ユースメンバーは、ドイツのダルムシュタット工科大学及びハンブルグ大学から参加した約30名の大学生と意見交換のセッションを行いました。両大学は毎年、「核兵器禁止条約に関する交渉シミュレーション」プログラムのもと、大学生をNPT会議に派遣しています。ユースメンバーと独大メンバーは事前に連絡を取り合い、ディスカッションのテーマ(原子力発電に対する考え方など)を決定し、それぞれが自国の政策についてのプレゼンテーションを準備しました。共通項も多い日本とドイツ。当日は少人数のグループにわかれての白熱した議論となりました。

連続勉強会 「英文テキストで学ぶ核問題」 (全9回)

実際に過去の国際会議で使われた政府演説を題材に、核問題の基本概念や専門用語を学び、各国の姿勢について議論しました。「なぜこの言い回し?」「なんだかエラそう」「わざと曖昧にしているのでは?」等々、コトバの背後にある世界の現状を読み解いていきます。

>> このほかにも、長崎を訪問したアルジェリアのタウス・フェルキ大使(NPT再検討会議議長)との意見交換や、日本の外交官、国際NGOスタッフなどを講師に迎えた勉強会を行いました。

3. 帰国後 ～終わりの始まり～



ナガサキ・ユース代表団3期生としての公式活動が終了した後も、活動を通して得た知識・経験・人脈を活かし、ユースメンバーは各方面で活躍しています。

🎤 より若い世代へ！ ～大学生による「出前講座」～

平和教育においては、原爆の悲惨さを伝えるだけではなく、核をめぐる現在の情勢を知ることや、これからの未来をどうすべきかを若者自身が考えることが重要。ニューヨークで行った提案を教育現場で実践する機会にも恵まれました。近郊の中学校への「出前講座」です。どうすれば複雑な問題を中学生に理解してもらえるか、自分たちの気持ちをちゃんと伝えられるか、議論に議論を重ねて準備しました。



🎤 被爆70年、若者が動く

🎤 知名度もやや上昇？ ～さらなるネットワークの拡大～



長崎を訪れるさまざまな団体や個人から、「ユースメンバーと会ってみたい」というリクエストが舞い込むこともしばしば。各国の政府関係者、国内外のメディア、海外からスタディツアーでやってきた大学生グループなど、枚挙にいとまがありません。また、国連をはじめとするさまざまな組織が主催するイベントに招かれ、ユースメンバーがスピーチやプレゼンテーションをする機会も増えています。一つの出会いが次の新しい出会いを生み、ユースのネットワークはますます広がっています。

ナガサキ・ユース代表団の存在は、長崎の若者の活動全体の活性化にも貢献しています。広島・長崎の被爆70年の節目となる2015年夏、ユースメンバーを含めた長崎、広島、東京の大学生らは、核や平和の問題について学ぶ合宿（「サマーキャンプ ナガサキ2015」）を実施し、そこでの議論の成果を「若者宣言～被爆70年、核兵器のない世界に向けて～」として発表しました。この宣言をもとに、さらなる新しい企画が動き出しています。また、11月に長崎で行われた第61回パグウォッシュ会議世界大会に関連しても、ユースメンバーらは米国政府高官をはじめ会議参加者との積極的な意見交換を行いました。このほかにも、さまざまな機会において、ユースメンバーは長崎の若者の活動の牽引役を担っています。国境を超えた人脈を活かし、アジアの若者との交流をはかるNGOを立ち上げたメンバーもいます。



まだまだ多くの大学生にとって、「核兵器」というテーマは、「遠い、難しい、重い、自分と関係ない」問題と感じられるかもしれませんが、



そんな中でも、「ナガサキ・ユース代表団」の存在をきっかけに、この問題に関心を持つ長崎の若者の数は少しずつ、でも着実に増えています。



VOICER GOGOBOBは語る



田平 由布子

(2期生・長崎大学核兵器廃絶研究センター勤務)

私がユース代表団としての経験の中で感じたのは、「学ばずにはいられない」ということです。私は、もともと核問題や平和活動、平和教育には全く興味がありませんでした。ですが、大学の先輩からの誘いで若者が核問題を考えるイベントの実行委員を務めるようになってから強く興味を抱くようになりました。「核兵器」ひとつとっても様々な考え方があります。「核兵器=悪」という考えだけではなくという学びは新鮮で、核問題に対する学びを深める大きなモチベーションになりました。若いうちに世界規模の問題を真剣に考えることは、大きな糧になります。「学ばずにはいられない」—こう強く思えるきっかけが、ユース代表団の活動だったらいなと思います。



宮田 美波

(2,3期生・長崎大学医学部保健学科4年)

2期生の時に非核兵器地帯の魅力にとりつかれ、3期でも非核兵器地帯の事を思う存分追求させて頂きました。ユースに参加して、大好きな非核兵器地帯のことを語り合える仲間と出逢えたことも貴重な宝物です。自身の興味や疑問点を追求できる環境がココにはあります!

今、知りたい!どうしてこんな事が起きているの?この時この人はなにを考えたのだろうか?授業では学べないことを納得のいくまで掘り下げられること、学部では出逢えない仲間や普段逢えない人生の先輩方と出逢えることもユースの醍醐味です。



西田 千紗

(2,3期生・長崎大学医学部3年)

生まれた時から戦争のない状態が当たり前の私たち若者世代にとって、「世界平和」や「核兵器廃絶」と言った話は、大切だとは知りつつもどこか抽象的で、専門家や国の代表が取り組むものという、漠然としたイメージだと思います。私自身も、初めは「肩書きも知識もないただの大学生の私ができることなんて、実際はほとんどないのだろうな」という思いを抱えつつ、ユース代表団に参加しました。しかし、ユースとして活動する中で、この問題が「今」を生きる一人一人がしっかりと向き合う必要のある、本当に重要なトピックであること、世界には、自分の力を信じて核兵器廃絶運動に取り組む、なんの肩書きも持たない市民がたくさんいること、そして、私のような普通の大学生にも、そんな世界中の仲間たちと一緒にできることが山のようにあることを知りました。私達と一緒に、自分の手で、希望溢れる明るい未来を作っていきますか?



山中 智絵

(2,3期生・長崎大学薬学部3年)

ナガサキ・ユース代表団 2期・3期生の活動では、ニューヨークでドイツから来た大学生と核問題についてディスカッションする機会がありました。その時に仲良くなった友達とは、今も手紙を交換して交流を続けています。この出会いがきっかけでドイツに興味をもつようになり、最近では第二次世界大戦がはじまったころのドイツを舞台にした映画を観ました。ナチスによるユダヤ人の迫害、地雷を踏んでしまった仲間を置いて逃げる軍人の姿など…。戦争をしても誰も幸せにはなれないのだと強く思いました。戦争を経験したことのない私たち若い世代は、このように映画やドラマに影響されることが多々あると思います。きっかけはささいなことでも、戦争のない平和な世界を願う気持ちは大切です。でも、願うだけではちょっと足りない。願う気持ちを、ぜひ行動に表してほしいと思います。RECNAには核兵器廃絶を目指して行動をおこし続ける先生方が集結していて、あなたの想いを具体的な行動に移すとき、力になってくださいます。そして、一緒に頑張る仲間も、ここであなたを待っています!



江島 健一

(1期生・将道会総合南東北病院 初期研修医)

2013年にナガサキ・ユース代表団の一員としてジュネーブを訪れました。もっとも強く感じたのは、核兵器をめぐる世界が各国の安全保障と強固に関連していることでした。長崎にいるだけでは気づくことが難しかったと思います。ナガサキ・ユース代表団派遣事業の更なる発展と、少しでも多くの長崎の若者がチャンスを掴み、日本の中と外との間にある違いを肌で感じることを願っております。

(所属は2016年3月現在)

■ 編集発行責任

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

※PCU-NCは、長崎県、長崎市、長崎大学の3者による核兵器廃絶のための協議会。

**核兵器廃絶
長崎連絡協議会**
PCU-Nagasaki Council



■ お問い合わせ先

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

〒852-8521 長崎市文教町1-14
(長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)内)

TEL: 095-819-2252 / FAX: 095-819-2165
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/pcu/>

facebook

<https://www.facebook.com/nagasakiyouth>

